

演習Ⅱ

担当者 宍戸 邦章

開講時期 通年 単 位 4

●講義の概要

研究テーマに即して、先行研究の批判的検討を行い、社会調査やデータ分析、修士論文執筆の指導を行います。履修する大学院生は質の高い修士論文を完成させるために綿密な計画を立てる必要があります。先行研究の整理や社会調査の実施など、毎回の講義で進捗状況を報告してもらいます。

●講義の到達目標

地域政策学分野の基礎的な知識と研究能力を習得することが求められます。特に少子高齢化を背景とした地域社会における社会的包摂の政策に関する理解を深めるとともに、修士論文の作成に必要な研究能力（課題設定、調査の実施、データ分析、論理的思考など）を高め、一定の水準をもつ修士論文を完成させることが目標となります。

●講義計画

- 第1回 演習Ⅱの進め方及び研究計画の確認
- 第2～5回 修士論文の構成案の作成
- 第6～10回 先行研究のレビューと批判的検討
- 第11～15回 事例調査や質問紙調査の経過報告とディスカッション
- 第16～18回 修士論文中間報告案の準備
- 第19～22回 中間報告を受けた修士論文の構成案や内容の修正
- 第23～25回 修士論文の執筆状況の確認
- 第26～29回 修士論文の内容の再確認
- 第30回 演習Ⅱの総括

●成績評価基準と方法

〔評価方法〕

- ①報告・発表（30%）
- ②修士論文の内容（70%）

〔評価基準〕

- ①地域政策学分野の基礎的な知識と研究能力を習得しているか。
- ②少子高齢化や社会的包摂にかかわる知識を習得しているか。
- ③先行研究の整理から自らの研究課題を明確化できているか。
- ④必要な情報を収集・整理できる能力を高めているか。
- ⑤上記を踏まえた上で、一定の水準を満たした修士論文を執筆できているか。

●テキスト又は参考文献

受講生の問題関心に合わせて、適宜指示する。

●受講上の留意点

演習は受講生が主体となる場です。講義中に円滑に報告できるように簡潔なレジュメを作成しましょう。質の高い修士論文となるように学内外での報告の機会を積極的に活用しましょう。